たかすっ子

学校だより　　第１１号
令和４年３月１日発行
千葉市立高洲第四小学校

小規模校の良さをいかした「送る会」、「卒業式」

校長　　渡辺　基博

ここ数日の暖かさで学校の梅も咲き始め、春の訪れが実感できるようになりました。早いもので、今年度も残りひと月となり、学年のまとめとともに、卒業式に向け力を注いでいるところです。

さて、新型コロナウイルスによる対策が始まってから、丸２年が経ちます。新規の感染者数が減っては、また増えの繰り返しで、学校での行事、音楽、家庭科、体育等も、その時々で制限されたり、緩和されたりしてきた２年間でもありました。今回のオミクロン株では、学級閉鎖等、子供たちの中でも感染が広がり、過去最多の感染者数に上っておりますが、一方で、学校の規模や感染状況等に応じ、対策を十分に行ったうえで実施できることも増えてきました。

先日行われた「６年生を送る会」も、小規模校であることから、今年度は、全校児童が体育館に集まって行うことができました。各学年の発表は、大きな声を出すことへの制限があったため、合奏が中心となりましたが、「元気のでる曲」「美しい音色を奏でる曲」「歌詞に感謝の言葉が入った曲」など変化に富み、自分のパートに心を込めながら演奏をすることで、６年生に感謝を伝えることができました。特に５年生は会の運営だけでなく、小学校生活を振り返れる写真を流しながらの合奏、一緒におこなった思い出のダンスを６年生と踊る等、子供たちがアイデアを出し合い主体的に取り組んできたことがよくわかり、来年度の最高学年を安心して任せられる気持ちにもなりました。そして、まるでライブ会場に来たかのようなテンションで、楽器とメンバー紹介から始まった６年生の合奏「三原色」。人とのつながりの大切さや温かさを表現した YOASOBI の曲ですが、全体の調和がとれ、「つながりと絆」を全校児童に示した見事な演奏でした。学校評議員からも「歌や劇がなく合奏中心でも、これまでの送る会と遜色がなく、工夫次第で素晴らしい会にできることがわかった。」という感想をいただけました。

６年生が登校できる日も、あと 13 日となりました。残念ながら、今年度の卒業式も来賓を招待することができず、また、一人一人の間隔を開けての実施が条件となっていることから、本校では保護者と卒業生の弟妹の他、５年生、４年生、そして、卒業生と関わりが深かった１年生の参加としました。式に参加できない２、３年生も、当日の６年生の姿を見てお別れできるような場を設け、全校児童が何らかの形でかかわられるよう計画を進めております。様々な制約がある中ですが、小規模校の良さを生かし、卒業生一人一人が輝ける式、そして、心に残る式になるよう努めてまいります。

令和３年度の学校だよりは、これが最終号になります。保護者の皆様方には、１年間、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただくとともに、コロナ感染予防にも努めてくださったこと、心よりお礼を申し上げます。おかげさまで、校外学習、外部講師を招いての学習、幼稚園・保育園との連携教育など、予定していた体験学習は概ね実施することができました。一方で、歌唱、ボール運動、調理実習等、コロナ対策によりできていない学習もあります。これらは、来年度以降優先的に実施し、子供たちに必要な力を身に付けられるよう努めていくとともに、これからも「地域から愛される学校」を目指し、教職員一同、精進を重ねていく所存でありますので、今後ともよろしくお願いいたします。